

瑞穂市図書館だより

「読書のまち みずほ」をめざして、子どもの読書活動を推進しています。

2025. 04第107号

本館 058-326-2300

分館 058-328-7070

ようやく春の日差しを感じる季節となりましたが、花粉症の方にとってはつらい時期ですね。別れと出会いの春、新しい生活を始める方もいらっしゃると思いますが、図書館でも新しい本との出会いがありますように！

分館では「BOOK BINGO！」のイベントがあります。詳しくはHPや館内ポスターをご覧ください。皆様のご参加お待ちしております！



4月のイベントカレンダー

<https://www.library-mizuho-gifu.jp>



日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 ＜分館＞ おはなしの会
6	7 休館日	8	9	10	11 ＜本館＞ 未就園児向け おはなしの会	12 ＜分館＞ おはなしの会 BOOK BINGO！
13	14 休館日	15	16	17	18	19 ＜分館＞ おはなしの会
20	21 休館日	22	23	24	25 ＜分館＞ 未就園児向け おはなしの会	26 ＜分館＞ おはなしの会
27	28 休館日	29	30 休館日			
「おはなしの会」 「未就園児向けおはなしの会」 「映画鑑賞会」			【分 館】 毎週土曜日 14：30～ 絵本フロア 【本 館】 第2金曜日 10：30～ おはなし室 【分 館】 第4金曜日 10：30～ 絵本フロア 【本 館】 5/18、9/21、11/16、3/15 10：30～ 2階・学習室 定員20名			



新刊PICKUP！

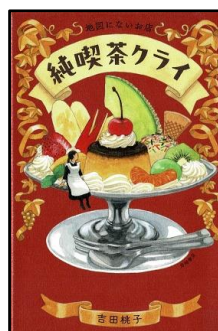
一般 ・ 児童



『江戸時代のオタクファイル』 ＜281.0/シ＞

辛酸 なめ子 // 著 淡交社

えっ！江戸時代にオタクがいた!? 衣食住が縞模様まみれだった『縞模様オタク』、奇談を集めまくった『奇談オタク』などなど。ネットもテレビもない時代に、自分の足で歩いて調べたり、詳しい人に会いに行ったりして、自分の好きな世界を探求していました。そんな江戸時代のディープなマニア 25 人を紹介します。



『純喫茶クライ 地図にないお店』 ＜児/913/ヨ＞

吉田 桃子 // 作 岩崎書店

『純喫茶クライ』は、つらい思いをしている子どもの前にだけある日突然現れる喫茶店です。扉を開けるとミルクセーキやプリンアラモードなど心躍るメニュー、そして驚きのストーリーが待っています。自分の本当の気持ちに気づかせてくれるマスターさんが素敵です。悩める大人の前にも現れてほしいですね。

※他にもまだまだあります♪ 一般（毎週土曜日発行）・児童（隔週土曜日発行）の新刊案内をご覧ください。両館お取り寄せできます。貸出中の場合は、予約できます。お気軽にお尋ねください。



『校正・校閲 11 の現場 こんなふうに見える』

牟田 都子 // 著 KTC 中央出版 <749.1/ム>

校正・校閲という仕事をご存じでしょうか。原稿の内容の誤りを正して体裁を整えたり、不足する部分を補ったりする仕事です。それは辞書や小説に限らず、マンガやレシピ、新聞など多岐に渡ります。中にはテレビのテロップも。本書は、自身も校正の仕事をする著者が 11 の現場を訪ね、その思いをまとめた 1 冊です。



『もしぼくが鳥だったら パレスチナとガザのものがたり』

ファーティマ シャラフェッディーン // 作 アマル // 絵 ゆぎ書房 <E/ア>

「ぼく」の家は、パレスチナというところにあった。でもある日突然、家を追い出されて…。高校の教科書にも出てくるナクバ(大災厄)と呼ばれるパレスチナ占領と追放・ガザの壁を、主人公の少年がやさしい言葉で率直に語った絵本です。今、現地で起きていることを理解する助けになる一冊です。

本館 テーマブック

今月のテーマ
『大阪』

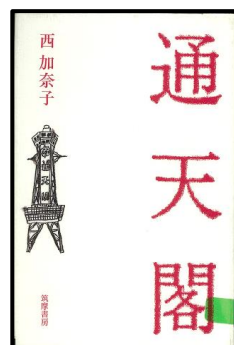


大阪では1970年の万博以来、55年ぶりの万博が2025年4月13日から始まります。大阪は日本3大都市のひとつで全国第3位の人口を誇ります。独特の文化を持つ大阪。特有の方言や独自のユーモアがあり、人々もとりわけ陽気で明るい性格です。大都市でありながら人との距離感が近く親切的なイメージがありますよね。

今月のテーマブックは『大阪』。万博のことや大阪がテーマの本を集めました。



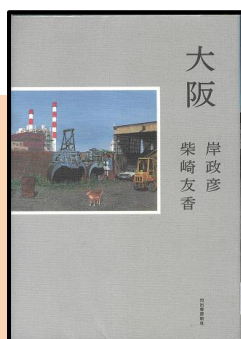
小説
『こなもん屋馬子』
田中 啓文 // 著
913.6/タ
実業之日本社



小説
『通天閣』
西 加奈子 // 著
913.6/ニ
筑摩書房

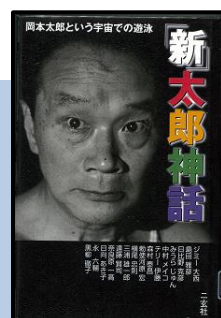
エッセイ

『大阪』
岸 政彦 // 著
柴崎 友香 // 著
914.6/キ
河出書房新社



1970 年万博

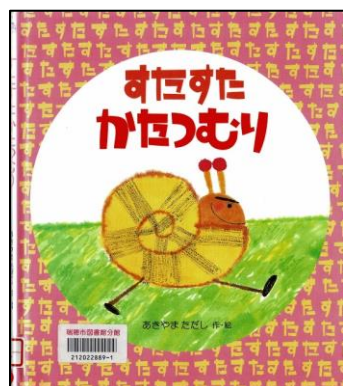
『「新」太郎神話』
ジミー大西ほか // 著
723.1/シ
二玄社



分館 テーマブック

今月のテーマ

『春・お母さん・こいのぼり・
おでかけ&おべんとうの本』

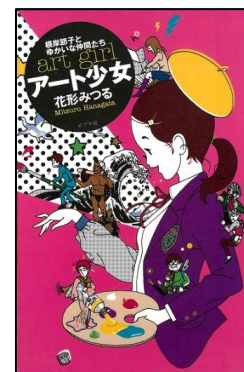


『すたすたかたつむり』 <E/ア>
あきやま ただし // 作 絵 岩崎書店
すたすたと歩くのは、かたつむりくん。かたつむりはそんな歩き方しないって？いやいや、かたつむりくんはそう歩けるんです。今日はとてもいい天気なのでおさんぽにでかけました。元気よくすたすたすたすた…みんなを追いこしてすたすたすたたたーっ！…たたたたーっ！あれれ、おさんぽしてるんじゃないかなったっけ？！

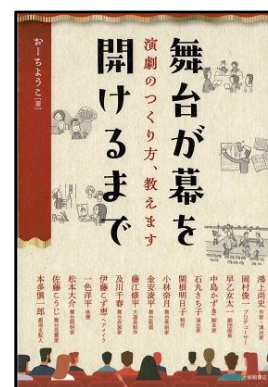
リブ
L・I・B

ヤングアダルト

YA 向け おすすめの本



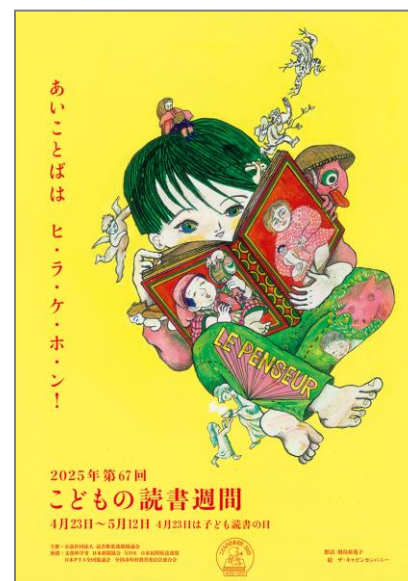
『アート少女 根岸節子とゆかいな仲間たち』
花形 みつる // 著 ポプラ社 <児/913/ハ>
優秀な3年生の卒業後、美術部の部長になった節子。部に残ったのは超個性的な面々。おまけに騒動を起こして部室を失い、美術部は今や存続の危機にありました。文化祭の製作費のため校内で密かに始めた‘商売’が校長にばれ、廃部を迫られた節子は「県展で大賞をとる！」と宣言しますが…。さて、美術部の運命は!? 熱き文系部活の青春物語です。



『舞台が幕を開けるまで 演劇のつくり方、教えます』
おーち ようこ // 著 大修館書店 <770/オ>
一言でいえば「演劇の裏方の仕事を紹介する本」ですが、演劇に関する本の企画・制作に携わる著者によると、「演劇に『裏方』はいない。みんな主役!」。俳優や脚本家以外にも、演劇には本当にたくさんの方が関わっています。「舞台が幕を開けるまで」にどんな職種の人々がどう関わってあの空間が生まれるのか、わかりやすく、熱く、教えてください。



こども読書週間が始まります!



子どもたちにもっと本を!との願いから、「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)にはじまりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日~14日)でしたが、2000年より、今の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)~5月12日になりました。

小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。「こどもの読書週間」のあいだ、図書館や本屋さん、学校などでは楽しい行事がいっぱい行われます。「こどもの読書週間」は、大人が本を子どもに手わたす週間でもあるのです。(読書推進運動協議会 HP より)

瑞穂市図書館では分館で『BOOK BINGO!』、本館で『親子でおりがみ遊び』を開催します!